



ぽっちゃり検査技師が聞いてみた!!

このコーナーでは当院に入職した職員を紹介します。

今回のインタビューは、事務部次長(兼 医事課長) 田中 隆則 さんに伺いました。

Q1…事務の仕事ですが、光が丘に来て下さる患者さまとの接点はどの様なことがあるのでしょうか。

A. 受付の業務です。患者さまが病院にいらして、一番最初に接するのが受付になります。また受付には、各診療科や検査・入院などその目的によりさまざまな受付を設け患者さまの対応をしています。次に、診察が終わり診療費の計算をする会計の事務が担います。

Q2…仕事上で大切にしていることはなんですか。

A. 病気やケガをされている方、高齢者の方や小さなお子さまが多く、丁寧な対応を心掛けています。

Q3…光が丘病院の魅力とは何でしょうか。

A. 地域に根差した診療を行っていること。近隣に、大きな公園の緑があり、大規模商業施設や交通機関も近く、環境が整っているとおもいます。

Q4…休日の過ごし方を教えてください。

A. もっぱら、家族サービスをしなければいけないこと。たまには、一人でゆっくりしたいのですが、仕方がありませんね。

Q5…好きなご飯のおかずは何ですか。理由もお答えください。

A. お肉ですね、年齢を重ねバランスのいいメニューが、望ましいのですが、その魅力から、いまだ抜け出せません。

ありがとうございました。
それではまた次号でお会いしましょう。

お知らせ

第9回練馬光が丘病院地域連携会議を開催(Webにて)

ご来賓の挨拶



開会にあたり、練馬区医師会会長 伊藤 大介先生(写真左)と練馬区医療環境整備課課長 中島 祐二様(写真右)からご来賓のご挨拶を賜りました。



ご講演



独立行政法人 地域医療機能推進機構 理事長、政府新型コロナウイルス対策分科会長 尾身 茂先生より「COVID-19これまで、そしてこれから」と題し、ご講演いただきました。(写真上)

また、当院の救急総合診療科総合診療部門 大西 翼が「当院クラスター事例から学ぶCOVID-19 感染対策」というテーマで講演しました。



講演後、参加者を代表して練馬区医師会会長の伊藤 大介先生、副会長の内田 寛先生より(写真左)質問をいただき、質疑応答をいたしました。

病院紹介

当院管理者・病院長光定誠より病院の現状と新病建設の状況について報告させていただきました。地域連携相談センターから新規着任の医師の紹介をいたしました。



練馬光が丘病院は「公益社団法人地域医療振興協会」の運営施設です。地域医療振興協会は、地域医療を取り巻くさまざまな問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に1987年5月に設立され、2009年12月1日より公益社団法人として新たにスタートしました。地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上など住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

発行元：練馬 が丘病院

〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-11-1
TEL:03-3979-3611(代)
<http://hikarigaoka.jadecom.or.jp>

きらきらレター

Kirakira-Letter

令和3年1月

第67号

公益社団法人地域医療振興協会 練馬 が丘病院 広報紙



もくじ

新年のご挨拶 2・3

お知らせ 4

ぽっちゃり検査技師が聞いてみた 4



令和3年新年のご挨拶

皆様あけましておめでとうございます。
謹んで新年のお慶びを申し上げます。



病院長
光定 誠
みつさだ まこと

昨年は残念ながら、コロナに始まりコロナで終わったという感じになってしまいました。この原稿を書いている12月初旬の時点では日本国内の第3波がいよいよ増大して、重症者もこれまでで最大となり、都内各病院の重症者用ユニットもオーバーフロー気味となっています。そのような状況の中、前週になって国と都は重い腰をやっとあげて65歳以上と基礎疾患がある方のトラベル・東京発着は「自粛」となりました。

寒くなり病院職員やご家族が発熱したといった情報に連日のように接する時期ではありますが、検査結果はどうだったなどと心配の絶えぬ日々です。クラスター発生時に開設したHCU（ハイケア・ユニット）20床は陽性者で埋め尽くされており、空床がでたらすぐに埋まってしまうといった状態で、夏から秋口には少なかった重症者（人工呼吸管理）の収容も増えており、まさに逼迫した状況になりつつあります。今後、感染者の爆発的増加といった状況になり当院の6床のみのICUにも収容せざるをえないといったケースも想定はしてあります。しかしそうなると冬季に増加する心筋梗塞・大動脈解離など、そしてクモ膜下出血や敗血症などの緊急性が高く、かつ重症な急患の受け入れ制限やお断りが必要になってしまいます。という事で、そう簡単にはICUに陽性者を収容できないのが現状です。

ところでテレビやネットなど報道は連日、重症者が増えた、最大だ、などとやっています。しかし今回の第3波で、ご高齢の感染者が入院に占める割合がどれだけ増えたかということは現時点（12月）にはあまり伝えられていません。都の基準でも人工呼吸またはECMO（膜型人工肺）で治療されている方を重症とカウントし、それ以外の酸素の必要な方を中等症、酸素が不要な場合を軽症としていますが、そこに年齢の要素は加味されていません。第2波の時は入院患者の多くが若い方だったのですが今は全然違うのです。全体の2/3くらいが70歳以上で、多くの方になんらかの基礎疾患があらわれ、歩行・移動が困難だったり、認知症があったりします。たとえ酸素投与不要の軽症コロナでも、医師・看護・介護・リハビリなどのチームが力をあわせてケアにあたる必要があります。もちろんキャップ・N95マスク・アイシールド・ガウン・手袋といった厳重な感染防御策をとりながらの対応となります。

このレターが配布されるころには、是非とも第3波はピークを疾うに越して穏やかなお正月となり、皆様は勿論のこと私ども医療者達も家などでゆったりと心安らかな時を過ごせ、この文を読んでも「あの頃は大変だったんだよね」と笑って言えるよう、手を合わせて神様仏様にお祈りするばかりです。

コロナ話ばかりになってしまいましたが、来年（2022年）はいよいよ新病院開院の年になります。今年4月の時点でも新たに総合救急診療科、リウマチ膠原病内科、糖尿病内科、産婦人科、外科、乳腺外科など計10名以上の医師の増員を予定しています。私たちは地域の皆様に求められるニーズに、より多く応えられるようにとの意識を常に持ち、職員一同で日々頑張っている所存です。今年も地域の皆様、医療機関の方々、どうぞよろしくお願い致します。

新年明けましておめでとうございます。
新年を迎え謹んでご挨拶申し上げます。



看護部長
大城 優子
おおしろ ゆうこ

旧年中は、当院におきまして新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ休診を余儀なくされたことを陳謝するとともに、地域の皆様からのたくさんの励ましや支援を賜り、診療活動が再開できましたことを心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による未曾有の災禍であり、まだまだ予断の許さない状況ではあります。皆様におかれましても試行錯誤しながら新しい生活様式に対応され、大変なご苦勞をされておられることと案じております。職員一同一致団結し皆様の健康と安全を守るため全力で地域の皆様に貢献できますよう努めてまいります。

新病院の開院に向け準備を進めております。新病院が、地域住民の皆様の健康を支える医療を提供できる病院となれるよう一層の努力をしております。

新型コロナウイルス感染症が一日でも早く終息し、皆様の平穏な日々を取り戻せること、そして、皆様の健康を心からお祈りいたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

明けましておめでとうございます。

本年が皆様方にとりまして、健やかで幸多き年でありますよう、
また、更なる飛躍の年となりますよう心から祈念申し上げます。

昨年はいよいよ新病院の建設がスタートし、新病院開設の現実感が増し、希望と期待が膨らんできております。そんな中新型コロナウイルス感染症の影響により皆様にはご不安ご心配ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。地域の多くの方々にご支援や励ましのお言葉をいただき、誠にありがとうございました。今後も院内では感染拡大防止に努め、地域に信頼される病院になれるよう皆で一所懸命取り組んで克服していく所存です。

現病院におきでは引き続き狭隘で老朽化した施設において創意工夫しながら、新病院に繋がる堅実な運営とサービスの向上ができるよう努め、地域のニーズに応え、皆様とともに地域の発展に貢献していきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

事務部長
おおむら しげお
大村 重雄